

スポーツの力で、 国際交流の 輪を広げる。

静岡県は交流人口の増大を目指して、

国際的なスポーツイベントや

事前キャンプの誘致などを積極的にやっている。

今年から始まった本格的な取り組みと、

東京オリンピック・パラリンピックも視野に入れた

長期的ビジョンについて紹介する。

スポーツ交流の2つの目的

静岡県が推進する国際的なスポーツ交流には2つの目的がある。一つは観光を主体とした交流人口の拡大だ。競技を通じた交流を契機に、自然、文化、食といった静岡県の魅力を広くアピールし、地域や国を超えた交流の輪を広げ、県内観光を活性化しようという狙いだ。

もう一つは人づくりの視点だ。世界のトップアスリートの活躍を間近で見ること、子どもがスポーツに関心を持ち、スポーツに触れる機会を増やすとともに、外国人との交流を通して「国際感覚のある子どもを育成しよう」という狙いだ。静岡県が国際的なスポーツイベントや事前キャンプの誘致などを積極的にやっている背景には、短期的な視点だけでなく、中長期的なビジョンも込められている。

ラグビーで静岡をPR

今後、県内で開催される国際的なスポーツイベントの中で、もっ

キャンプの誘致を進めるため、各市町と連動して、海外競技団体のキーパーソンの招へいや各国の強化合宿を呼び込むことで誘致の拡大を図ろうとしている。

新たなスポーツイベントを誘致

本県は、数多くの優れたスポーツ施設、豊かな自然環境を有し、首都圏からのアクセスも良いことから、様々なスポーツイベントを誘致できる力を秘めている。例えば、サイクリングだ。

まず2016年に伊豆ペロドローム(伊豆市)を会場の一つとして開催される、第36回アジア自転車競技選手権大会では、アジアのトップアスリートの活躍が期待されている。

また、自転車先進国と呼ばれるイタリアとの交流も始まりつつある。同国北東部のフリウリ・ヴェネチア・ジュリア州と静岡県の間で、サイクリング大会の相互交流がスタートし、今後両県が連携しながら富士山をはじめ県内の美しい景観を舞台にしたサイクリング大会を通じた交流を進めていく。

サイクリングは、国民の健康志向やエコブームなどにより愛好者が

とも注目を集めているのは「ラグビーワールドカップ2019」だ。全国12会場の一つとして小笠山総合運動公園エコパスタジアム(袋井市)が決まっているため、本県は各市や静岡県ラグビーフットボール協会等と協力して、ラグビーの普及・啓発運動、ラグビー教室の開催、各大会の静岡開催誘致などに取り組み、ラグビーのファン層を拡大しながら、開催成功へ弾みをつける構えだ。またラグビーワールドカップ2019組織委員会と連携し、今年開催されたイングラ

ンド大会へ視察団を派遣するとともに、同大会観戦のために集まった世界中のラグビーファンに静岡県の魅力を発信するPR活動も行っている。

イングランド大会での日本代表の活躍により、国内はもちろん、県内においてもラグビーに対する関心が高まっている。静岡県はその気運に乗じて、市町と連携した講演会を催すとともに、子どもも安心して競技に参加できるタグラグビーの普及にも積極的に取り組ん

増えている。自転車でさまざまな場所を巡るサイクルツーリズムは、自然、文化、食といった静岡県の魅力を広くアピールしやすい。それゆえに交流人口の拡大を目指すスポーツ交流において多くの可能性を有している。

また、海岸線の多い本県にとつてビーチバレー等のビーチスポーツも高い可能性を秘めている。首都圏に近い、施設投資が少ない、市町が参画しやすいなどのメリットがあり、今後が期待されるスポーツの一つだ。

スポーツ交流は平和の象徴

交流人口の増大と子どもの育成を目的に掲げる静岡県のスポーツ交流。単に大会や事前キャンプを誘致するだけでなく、イベント前後の文化交流プログラムにも知恵を絞る、全県体制で交流の輪を広げていこうとする姿勢にはスポーツの根底に息づく平和への願いが込められている。

国内外から憧れを呼ぶスポーツ王国へ。豊かな自然や文化が根付く「場の力」を生かした静岡県の戦略に世界の注目が集まっている。

でいく。

オリンピックの事前キャンプ

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに対する期待も大きい。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が自転車競技の会場として伊豆ペロドロームを含む日本サイクルスポーツセンター(伊豆市)を候補地として検討しているからだ。開催が決まれば、施設改修やアクセス道路を整備する必要があるが、世界最大級のスポーツイベントだけに、県内が活気づくのは間違いない。

東京オリンピック・パラリンピックに関する事前キャンプの誘致はすでに始まっている。今年8月にはモンゴルのレスリング代表チームが焼津市で、柔道代表チームが伊豆の国市で、それぞれ事前キャンプを行う基本台意書を取り交わした。また、台湾のアーチェリー代表チームも8月に来静し、日本代表や本県代表選手と合同合宿を行い、本県の施設や受入体制の充実度を体験したところだ。静岡県では今後も事前



サイクリストの憧れ「シロ・テ・イタリア」のコースとなっているフリウリ・ヴェネチア・ジュリア州で開催された「カルニア・クラシック・インターナショナル・フジ・ソングラン」。今年は静岡県民も参加した。



イタリアのサイクリング大会「カルニア・クラシック」に参加した静岡県チーム。



ラグビーワールドカップに向けて回結する知事(中央)と大会組織委員会の御手洗富士雄会長(左)。右は元ラグビー日本代表の平尾誠二さん。



今年8月、モンゴルで行われた焼津市長、伊豆の国市長による東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプに関する覚書の署名式。



南伊豆町の弓ヶ浜で行われたビーチバレー大会。海岸線の多い静岡県はビーチスポーツ大会も盛んだ。



国内有数の自転車競技施設と言われる「ペロドローム」(伊豆市)。傾斜45度のトラックで行われるレースはスピード感と迫りに満ちている。



焼津市総合体育館「シーガルドーム」。モンゴルのレスリング代表チームが東京オリンピックの事前キャンプを行う予定だ。